

# 特集 若年性認知症になっても、 私らしくいたい ～若さゆえの困難を乗り越えて～

CMや映画にも取りあげられ、多くの人たちに知られるようになった若年性認知症。医学が進歩し、初期症状での診断が以前より容易になり、アルツハイマー病の症状を遅らせる新薬が発売されています。しかし、一般的には、病気について正しく理解されているとはいえず、やみくもに恐れられたり、もしくは逆に楽観視されているのが現状です。また、老年期の認知症と比べ、若年性認知症に対する制度やサービスは、ほとんどありません。今回は、若年性認知症者やその家族をサポートする団体の活動を通して、その実情や支援のあり方について考えてみたいと思います。

げく、若年性認知症の治療を行う精神科や神経内科などの物忘れ外来にたどり着いた時には、すでに病状が進行している場合も少なくありません。若い世代にも認知症の発症があることの啓発が必要です。

## 家族を巻き込む経済的な打撃

老年期の認知症との大きな違いの一つに、職を失うことによる経済的な打撃があり、家族の生活水準や子どもの進路にまで多大な影響を及ぼします。若年性認知症になった場合の制度活用について、NPO法人「認知症の人とみんなのサポートセンター」代表・沖田裕子さんに伺いました。

「障害者手帳を取得すれば、障害者自立支援法によるサービス等が受けられます。現在の制度では、若年性認知症は“精神障害”としてサービスを利用できます。多くの患者さんは、この現実が認めづらいようです。」

## 「うつ病?」それとも 「更年期障害?」

若年性認知症は、18歳から65歳未満で発症する認知症の総称です。原因となる病気には、アルツハイマー型認知症や前頭側頭型認知症などの神経変性疾患、脳血管性認知症があります。

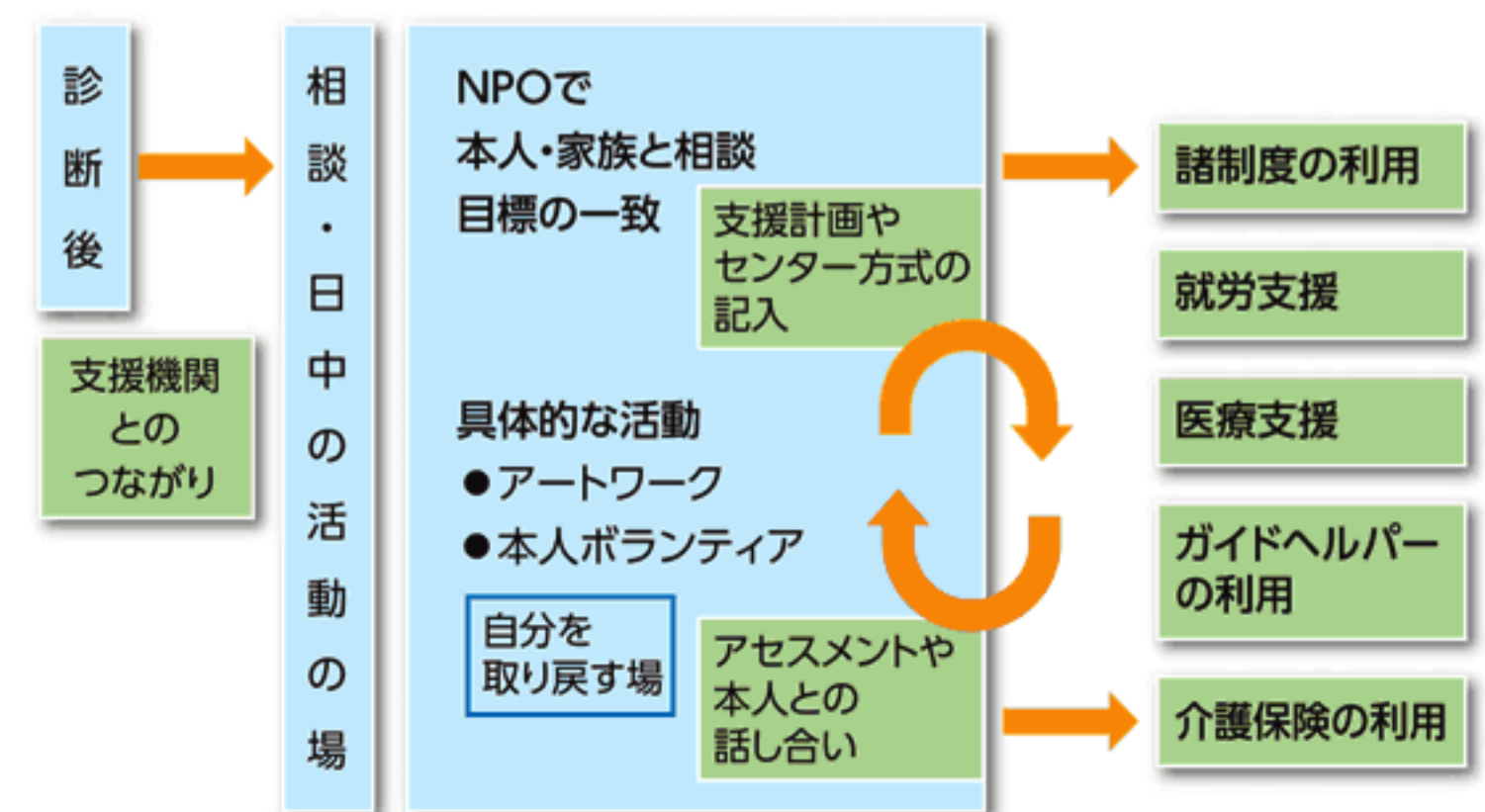
一般的に「認知症＝物忘れ」と考えられがちですが、病気によって症状は異なりま

す。とりわけ初期症状は多様で、老年期の認知症と比べれば、自己判断が難しいといわれています。例えば、若年性認知症に比較的多い「前頭側頭型認知症」の初期症状では、記憶障害よりも、脱抑制的な(今まで我慢できたことが我慢できなくなる)言動が目立ちます。また、「うつ病」「更年期障害」に似た症状が出ることもあります。このため患者は「認知症」だと思わず、内科、心療内科、婦人科などを受診し、遠回りしたあ

## 「この先どうしたらいいの?」 人生プランを一緒に立てる

制度活用と並行して、若年性認知症の当事者には、同じ悩みを抱える患者や家族との交流や患者自身の活動の場が必要です。しかし、実際にはほとんどなく、若年性認知症の人にも趣味やボランティア活動の機会を提供している同センターには、遠方から通う利用者も少なくありませんが、沖田さんは、地域でも支援が不可欠だと強調します。そのために必要なのは「ご本人が今、どんな問題を抱え、どんな段階にきているのか気づいてもらうこと。その上で、その人らしい暮らしを構築するために必要なサービスや地域の社会資源を結びつけ、将来のプランを一緒に立てていく。そうしたコーディネート機能が急務」と言います。

### ●若年性認知症のサポート機関としての役割 (NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンターでの支援図)





## 本人と家族の二本立て

愛都(アート)の会では、若年性認知症の患者・家族同士の交流や社会参加を支援するために、月1回定例会を実施しています。活動を支えるのは、サポーターと呼ばれるボランティア。福祉専門職を中心に、福祉系の大学生、認知症介護経験のある主婦などで構成されています。

奇数月の定例会は、「本人交流会」「家族交流会」が同じ建物内の別々の部屋で行われます。「ご家族はご本人に“介護の大変さ”を打ち明けられず、ご本人は『世話になっている』家族に対し遠慮して、本心を言うことができない日常から離れてもらうため」と部屋を分けた理由を事務局長の杉原久仁子さんが説明します。

## “つなぎ役”のサポーター

本人交流会は、本人にとってどんな助けになっているのでしょうか。

「自分の病気について安心して話せたことを喜ばれています。とくに“何でもできるお父さん”の場合は、配偶者や子どもに弱いところを見せたくない、心配させたくないの、家庭では本音がなかなか話せないそうです」と杉原さん。

また、認知症になっても、できること、楽しめることを探すために「なにわくらぶ」という、歌ったり、絵を描いたり、本人のやりたいことを実現していく活動をしています。

このとき重要な役割を果たすのが、本人とペアを組むサポーターです。「世話する・されるの関係でなく、お互いが楽しみ、ご本人同士が自然に話せるよう促すのがサポートのコツ。見守りのかきもあって、最近では、ご本人同士が、物忘れの対処法など、生活の工夫を教え合っているらしいです」と杉原さん。

## 段階に応じて、変化する悩みごと

家族交流会でとり上げられる悩みごとは、病気の段階によって変化します。初期の悩みは、医師の告知を本人や家族にどう伝えるか。在職中の場合は、どんなタイミングで病気を切り出すかなど、若年性ならではの悩みが少なくありません。中期では、主に介護サービスの活用方法など現実的な話題へと移行します。後期に入ると、ト



定例会でフルートを演奏する参加者。楽器のできるサポーターと一緒に演奏することもあります



定例会での花見。人気のあるイベントは三世代で参加することもあります

イレの排せつ介助や、睡眠不足の問題など、老年期の認知症患者の介護の場合と、ほぼ同じ悩みが聞かれるそうです。

交流会では話題に上らないものの「個別相談」で必ず出てくるのが経済的な問題です。

「若年性認知症の7割が、年間200万円以下の収入になるというデータがあります。介護保険の申請に長らく踏み切れない方に尋ねてみると、自己負担がかかるなど経済的な問題があったのだと驚かされることもあります」と杉原さんは話します。

## その笑顔がうれしい、野外活動

一方、偶数月に実施される野外活動では、本人と家族と一緒に花見や公園の散歩へでかけます。リフレッシュできる環境の中で、お互いの「笑顔」をみることが癒しになっています。

同会副代表で父親が参加者の一人でもある西川忠良さんは「外出したくても、本人と家族だけでは、食事をするときも、人の目が気になります。同じ病気を抱えた人たちとの団体行動なら、みなリラックスできます」と話します。

## 受け入れて、地域生活をめざせ

若年性認知症の本人や家族が一貫して苦しむのは、病気の受容です。受け入れ

が難しい背景について同会代表の梅原早苗さんはこう指摘します。

「妻はまだ68歳、施設には入れられません。私が若い頃、68歳の母が認知症になったのなら入所を迷うことはなかったでしょう」とおっしゃる方がいます。若年性認知症の場合は、介護するのが、同世代の配偶者。だからよけいに受容できない側面があるのだと思います」

しかし、そうした中でも、愛都(アート)の会での地道な活動を通して、気持ちの整理がつき、認知症とともに歩む覚悟が生まれ「障害年金、障害手帳、あとはどんなサービスが使えるの？」などと前向きに情報収集をする人が増えています。

「そのような方の多くは、地域に対して若年性認知症であることをオープンにされています。家族以外に助けてもらえる人ができれば、ご家族は心強いですね」と杉原さん。

医学の進歩、利用しやすい法制度の確立、これに認知症患者とその家族を包み込む“地域のサポーター”が加われば、たとえ若くして認知症になっても地域で安心して暮らしていけるはず。「もし私が若年性認知症になったら」という発想を忘れずに、若年性認知症にやさしい地域づくりのために何ができるのか考えてみてください。

### ■若年性認知症本人や家族の交流会

同じ体験をした人たちの話を聞いたり、体験を話したりすることで気持ちが楽になり、また有益な情報交換ができます。

#### ●NPO法人認知症の人とみんなのサポートセンター(東成区)

連絡先:06-6972-6490 HP:<http://npo.kenko.officelive.com/default.aspx>

#### ●若年認知症支援の会 愛都(アート)の会(東成区)

連絡先:06-6972-6491 HP:<http://artnokai.kt.fc2.com/>

#### ●日々草の会(西成区)

連絡先:06-4392-8181(大阪市介護家族の会連絡会事務局)



1

## 福祉職員のメンタルヘルス研修 (一般職員対象、中堅・リーダー職員対象)

福祉職員等の対人援助職従事者のメンタルヘルスについて学ぶことを通して、自分らしく仕事ができ、良好な人間関係を保持して、バーンアウト(燃え尽き症候群)の予防を図ります。一般職員向けと、中堅・リーダー職員向けの研修を開催します。  
☆大阪市内の社会福祉関係施設・機関に勤務する職員が対象です

<一般職員向け>

- 日時 9月21日(水) 午後2時～4時30分
- 講師 臨床心理士 並木 桂(大阪市社会福祉研修・情報センター メンタルヘルス相談員)
- 定員 100人(先着順)
- 受講料 1,000円
- 会場 大阪市社会福祉研修・情報センター5階 大会議室
- その他 9月上旬に文書で受講の可否をお知らせします

<中堅・リーダー職員対象>

- 日時 10月17日(月)と11月14日(月) いずれも午前10時～午後4時30分(2回連続講座)
- 講師 津村 薫(女性ライフサイクル研究所)
- 定員 50人(申込多数の場合は、抽選)
- 受講料 4,000円
- 会場 大阪市社会福祉研修・情報センター4階 会議室1
- 締切 9月24日(土)
- その他 9月末頃に文書で受講の可否をお知らせします
- 申込方法 ①研修名 ②施設・事業所名 ③施設種別 ④参加者名(ふりがな) ⑤郵便番号・住所 ⑥電話 ⑦FAX ⑧その他を記入して、ファックス又はホームページから申し込みください。

2

## 地域福祉推進リーダー養成塾

私たちが住む地域には、子育てや介護など多くの福祉課題があります。その解決には、当事者を中心に地域住民・ボランティア・福祉関係者・行政が連携・協働して取り組むことが求められています。その要となる地域福祉推進リーダーを養成するために、地域福祉活動の実際(現場学習)やネットワークづくりの手法を学ぶ本塾を開講します。地域の福祉活動に取り組みたい、学びたいという人は、ぜひご参加ください。

☆大阪市内在住・在勤・在学の地域福祉活動者(例:社会福祉関係従事者、ボランティア団体・NPO等関係者、地域組織等で活動する実践者など)

●日時・内容

- 1日目/9月30日(金) 午前10時～午後4時  
オリエンテーション、講義「なぜ、つながるのかーネットワークの必要性の確認ー地域福祉の実践から、ネットワークの意義と手法を学ぶ～」など
- 2日目/10月8日(土) 午前10時～正午 フィールドワークのオリエンテーション
- 3日目/フィールドワーク①(10～12月)
- 4日目/12月3日(土)午前10時～正午 フィールドワークの中間報告

- 5日目/フィールドワーク②(12月～2月)
- 6日目/平成24年2月16日(木)午後1時30分～4時30分活動報告会
- 定員 30人(先着順)
- 場所 大阪市社会福祉研修・情報センター5階講座室2
- 参加費 無料(但し、交通費等は自己負担)
- 申込締切 9月27日(火)
- 申込方法 ①研修名 ②所属施設・団体名 ③参加者名(ふりがな) ④郵便番号・住所 ⑤電話 ⑥FAX ⑦受講動機を記入して、ファックス又はホームページから申し込みください。

3

## スキルアップ講座(第3回)

他人とのコミュニケーションをスムーズにするための効果的なスキルを学びます。日頃、コミュニケーションに悩んでいる人は、参加してみてください。  
☆本講座は、大阪市内の社会福祉関係施設・機関に勤務する職員を対象に開催します。

- テーマ コミュニケーションが楽しくなる技術
- 日時 10月25日(火) 午前10時～午後5時
- 講師 榊原 明美(株)ライフデザイン総合研究所主任カウンセラー・臨床心理士)
- 会場 大阪市社会福祉研修・情報センター
- 定員 40人(申込多数の場合は抽選)
- 参加費 3,000円
- 締切 9月22日(木)
- 申込方法 ①講座名 ②住所 ③電話 ④FAX ⑤所属団体等 ⑥職種 ⑦名前(ふりがな)を記入して、ファックスかホームページから申し込みください。

4

## 社会福祉講演会(第4回) 地域福祉の時代における 社会福祉実践者の課題

国の政策動向やこれまでの社会福祉制度を振り返りながら、これからの地域福祉の推進における住民と行政の協働のあり方や、地域における新たな支え合いづくりの必要性とそれを進めるための機能について、社会福祉実践者の果たす役割と課題について考えていきます。

☆大阪市内の社会福祉関係事業所に勤務する方や社会福祉活動に参加している方、その他大阪市内在住・在勤者が対象です

- 日時 10月22日(土) 午後2時～4時
- 講師 大橋 謙策(日本社会事業大学大学院特任教授、特定非営利活動法人日本地域福祉研究所所長)
- 定員 170人(先着順)
- 参加費 無料
- 会場 大阪国際交流センター2階 小ホール
- その他 定員に達し、参加できない場合のみご連絡いたします
- 申込方法 ①講演会名 ②郵便番号・住所 ③電話 ④FAX ⑤所属団体等 ⑥職種や活動内容 ⑦名前(ふりがな) ⑧年齢を記入して、ファックス、はがきにて申し込みください。

①～④の申し込み・問合せ

大阪市社会福祉研修・情報センター 企画研修課  
〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20  
☎06-4392-8201 FAX 06-4392-8272  
URL <http://www.wel-osaka.jp>  
車いす利用の人、手話通訳、拡大文字資料などが必要な人は、申込時にその旨を記入してください。

5

## 認知症を理解するための 研修会(後期)

認知症のある本人に対して適切なケアが行えるように、認知症のことをいろいろな角度から学ぶ研修会を開催します。認知症の本人、家族、専門職の方等、テーマに興味のある人はどなたでも参加できます。

- 日時・内容・講師
- ①10月15日(土)「認知症診療における専門医療機関と地域ケアとの連携」講師:医師 数井裕光(大阪大学大学院 医学系研究科 精神医学教室・講師)
- ②11月19日(土)「認知症介護～こんな時どうする?～」講師:沖田 裕子(大阪市社会福祉研修・情報センター スーパーバイザー)
- ③平成24年1月21日(土)「認知症介護～知れば楽になる排泄の知識～」講師:浜田 きよ子(排泄用具情報館「むつき庵」代表)  
※時間はすべて午後1時30分～4時
- 定員 各100人(先着順)
- 受講料 無料
- 会場 大阪市立社会福祉研修・情報センター5階 大会議室
- 申込方法 往復はがきに、①住所 ②電話 ③参加希望日 ④参加希望者名(ふりがな) ⑤申込者の分類(家族、専門職、その他)を記入して、下記まで郵送ください。
- 申込・問合せ先 大阪市社会福祉研修・情報センター 相談支援課 〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20 TEL06-4392-8188 FAX06-4392-8185

6

## 成年後見制度の可能性と 市民後見人 ～地域における権利擁護の推進～

大阪市では、平成18年より市民後見人の養成と活動支援に取り組んできました。成年後見制度や市民後見人活動を通して地域における権利擁護の推進を目的にシンポジウムを開催します。

- テーマ 第一部「成年後見制度の可能性と市民後見人の役割」講師:岩間伸之(大阪市立大学大学院教授)、井上雅人(大阪市成年後見支援センター専門相談員、弁護士)、第二部「パネルディスカッション～市民後見人による後見活動の実際とこれから」
- 日時 10月1日(土) 午後2時～4時30分
- 定員 350人
- 受講料 無料
- 会場 大阪市立西成区民センター(西成区岸里1-1-50)
- 申込方法 ファックス、はがき、Eメールで、①



名前 ②所属・団体名 ③電話番号と「シンポジウム参加希望」と明記のうえ、下記に申し込みください。

●申込・問合せ先 大阪市成年後見支援センター  
〒557-0024 大阪市西成区出城2-5-20(大阪市社会福祉研修・情報センター3階)  
☎06-4392-8282 FAX06-4392-8900  
Email yousei@shakyo-osaka.jp

7

## 子育て・子育て応援講演会

「子ども自身の育つ力を応援したい」保護者や子育て支援活動者などを対象に、多様なテーマで講演会を開催します(5回シリーズ)。

●日時・内容・講師

第1回/9月10日(土)「叩かず甘やかさず子育てする方法～スター・ペアレンティング」講師:井山里美(女性と子どものエンパワメント関西事務局次長)

第2回/10月1日(土)「子どもが健やかに育てられるために～子育ていろいろ、子育てを楽しみましょう～」講師:西林 幸三郎(大阪芸術大学初等芸術教育学科 教授)

第3回/11月6日(日)「あなたと私は ものがたりを紡ぎながら育ちあう」講師:村中 李衣(梅光学院大学文学部 教授)

※時間はすべて、午後2時～4時(受付は午後1時30分～)

※第4回・第5回の内容は次号以降に掲載予定です

●会場 大阪市立住まい情報センター 3階ホール  
〒530-0041 大阪市北区天神橋6-4-20

●対象者 どなたでも

●定員 各回200人(先着順)

●参加費 無料

●その他 一時保育は先着80人(対象は、生後3か月から小学校低学年まで)で事前に申し込みください。手話通訳希望の方は申込時にその旨記入ください

●申し込み 開催月の前月1日から、電話・ファックス・ホームページから申込できます

●問い合わせ・申込先 大阪市立子育ていろいろ相談センター

〒530-0041大阪市天神橋筋6-4-20

☎06-6354-0106 FAX06-6354-0277

<http://www.osaka-kosodate.net/>

8

## 公開講座 「看取りについて考える」 (3回シリーズ)

医療現場で取り組まれているホスピスケアや緩和ケアの歴史と現状を、学びながら、施設や在宅での看取りケアについて考えます。

●テーマ 死ぬ苦しみからの解放(スピリチュアルケア)

●日時 9月26日(月) 午後2時～4時30分

●講師 種村健二郎(武蔵野大学大学院 特任教授)

●定員 130人(先着順)

●受講料 無料

●会場 大阪府教育会館たかつガーデン 8階 たかつ東中

●申込方法 往復はがきに、①住所 ②名前 ③年齢 ④電話番号と、返信用はがきに住所、名前を記入のうえ、下記に申し込みください。

●締切 9月17日(土)必着

●その他 第2回を11月、第3回を来年3月に開催予定

●申込・問合せ先 一般社団法人大阪市老人福祉施設連盟事務局 〒543-0021 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市立社会福祉センター311号室

☎06-6765-3611 FAX06-6765-3612

## 国際セミナー開催のお知らせ

「シカゴ市のソーシャルサービス」と「アメリカにおけるターミナルケア」をテーマに、国際セミナーを開催します。講師は、「2011大阪市・シカゴ市社会事業従事者研修・交流プログラム」の参加者として来阪。10月4日(火) 午後3時～4時30分、大阪市社会福祉研修・情報センター大会議室です。詳しくはホームページをご覧ください。当センター(☎06-4392-8201)までお問い合わせください

パンフレット、カタログ、雑誌から会社案内等々

広告・デザイン・印刷のことなら

何でもご相談ください。



たとえば団体や催し物をアピールするためのパンフレットやフライヤー。作りたいものがあったとしても、それがなかなかカタチにならず困ったことはありませんか?そんなときは、アド・エモンにご連絡ください。当社が企画の段階から納品にいたるまで、各専門スタッフが的確にサポートし、あなたとアイデアをつなぐトビラになります。



TOTAL CREATION  
**AD.EMON**  
株式会社 アド・エモン

〒530-0045 大阪市北区天神西町8-19 法研ビル5F

TEL:(06)6362-1511(代) FAX:(06)6362-1510 E-mail:info@ad-emon.com

<http://www.ad-emon.com>

(広告)

## 9月末で「福祉用具展示コーナー」 「自助具展示コーナー」終了

大阪市社会福祉研修・情報センター1階にある、約290点の福祉機器・用具、約50点の自助具を展示し、相談コーナーを併設した「福祉用具展示コーナー」「自助具展示コーナー」が、本年9月末で終了することになりました。

長らくのご利用、ありがとうございました。

10月1日以降の相談・展示等は、下記にお問い合わせください。

### ●福祉機器の相談

関西シルバーサービス協会(☎06-6762-7895)  
ホームページ <http://www.kan-sil.or.jp/>

### ●福祉機器・用具の展示

ATCエイジレスセンター(☎06-6615-5123)  
ホームページ <http://www.ageless.gr.jp/>

### ●自助具の相談

大肢協・ボランティアグループ自助具の部屋  
(☎06-6940-4189)

ホームページ <http://www.daishikyo.or.jp/jijogu/>







## 大阪医療社会事業協会のはじまりと発展②

本稿は三話完結の第二話です。

昭和38年1月、日本生命済生会社会事業局局長の川村一郎さんが日本医療社会事業協会大阪支部長に就任します。川村さんの就任後、最初に始まったのが第16回日本医学会総会への参加です。大阪医療ソーシャルワーカー(以下MSW)協会会員であった医師のお世話で、日本医学会総会において学術展示会にパネルを展示し、リーフレット「医療ソーシャルワーカーとは」を配布しています。そして、医学会総会出席の行政、教育、臨床などの立場で活躍中の方々を招いて「MSWを語る会」を開催しました。当時、協会員はそれぞれ仕事を終えて疲れているにもかかわらず、阪大医学部公衆衛生教室において、パネル製作など、毎日夜遅くまで準備を行いました。協会員は皆、その他定例会、機関誌発行、スーパービジョン、喘息児童療育キャンプなど、数々の行事をこなし、とても熱心でした。

昭和39年、支部を解散し大阪医療社会事業協会として独立しました。しかし、身分法の問題は、全国組織でなければ解決できないので、日本協会に協力していきました。日本協会は人数が多くなり各地区でのブロック活動を意識しはじめようになり、この年大阪の呼びかけで第1回近畿ブロック協議会を開催、翌40年度に第1回近畿ブロック医療社会事業大会を京都で開催しています。常に大阪協会の会員は学ぶことに積極的でした。

昭和39年3月「医療ソーシャルワークの理論と実際」(アメリカ本の翻訳と事例)を発行。昭和40年には、医療保障研究グループから「MSW社会資源の手引」NO.1を発行しています。ソーシャルワーカーが社会資源をうまく使うには、社会資源の根本から理解していなければならないので、社会資源の研究は絶えず必要です。昭和41年には年報「大阪の医療社会事業」を発行しています。

昭和41年から、新任者現任訓練がスタートし、現在まで続いています。当時の会場は、阪大医学部公衆衛生教室でした。昭和44年度には、見学及び業務研修を始め、昭和50年に諸制度はじめ社会資源の説明を重視し、57年には基礎講義の後、実習を実施、平成元年からは、福祉系4年制大卒者には実践コース(講義と実習及びグループでの事例検討会)、その他の新任には基礎コースを実施しました。いずれも他府県に誇れる大阪独自の濃い内容です。

昭和58年に大阪病院学会へ会長・副会長が実行委員として参加し、その後2年毎に開催される大阪病院学会に大阪MSW協会から司会者として二人が参加、研究発表者も増えていきました。

昭和45年度は、大学紛争の余波から、日本MSW協会の運営に対する批判や大阪協会の行政と癒着した運営・活動の低調・非民主的な役員の選出方法などの批判が続出し、定例総会に来賓欠席という事態に陥りました。そこで、ソーシャルワークのソーシャルを考えるグループができ、会員自身を見つめなおす作業が始まりました。また昭和47年、大阪協会の入会条件から、日本協会会員であるという条件を削除したところ、半数近くが日本協会から脱退しました。

昭和47年には、協会員(現役)から初めて会長が選出され、大阪MSW協会は、権威への依存から、弱体ながらも自らの責任と決定をもって協会活動に当たることになりました。そして昭和58年に選挙管理委員会を発足し、理事を選挙で決めるようになりました。昭和62年に全国大会を大阪で開催しました。協会員217人のうち200人ぐらいの正会員、全員参加で、全員が一丸となった大会でした。その後も会員数は増加の一途。昭和29

年に25人ぐらいだったのが、62年で217人、平成元年で285人、平成15年で650人、平成20年で628人です。バブルがはじけて日本経済が低迷し、一般企業での就職が難しくなってきた頃から、福祉に注目が集まり、新任者研修参加者が80人ぐらいの時もありました。

定例会や事例研究の変化を年代ごとに見てみます。昭和29年頃は、結核に関する研究、神経症やパーソナリティに関する研究が多くみられました。昭和32年には、医療貸付制度、社会資源が登場しますが、これらは現在の課題でもあります。昭和45年頃、ソーシャルワーカーの位置づけや専門性についての勉強が増え、昭和46年に、大阪MSW協会のあり方や日常業務を通して基本問題を考える内容が変わってきます。昭和47年の初めての現役会長のときは、若い人の意見を取り入れるということに力を注がれました。テーマとしては人工透析、長期疾病、難病、リハビリテーションなどが取り上げられました。

以降、会長が次々に替わり「自分たちの専門性とは何か」など自分を見つめることや社会の変化に応じた活動をしていきたいと明言されるようになります。昭和55年度頃から難病、単身者の問題、昭和60年で人工肛門、がん末期患者、アルコール症、平成2年では児童虐待、高齢者、高齢透析者、高齢アルコール症など時代によって問題が移り変わります。平成4年には不法残留の外国人やHIVの問題も出てきます。また、患者さんの権利重視を問題にあげるようになってきます。昭和65年以降は、地域権利擁護事業、障害者自立支援法などの勉強が必要でした。

研究の変化をみると、時代に翻弄されながらも、時代を取り入れて動いていく、そのような姿勢がうかがえます。

※この稿は大阪市社会福祉研修・情報センターで開催された「社会福祉史の市民講座」の講演(講師:大垣芳美 元医療ソーシャルワーカー)の聴き取り(言葉については歴史的事実として当時の表現をそのまま使用しています)から抜粋したものです。



## 今月号の特集について もっと詳しく知りたい方は…

### 「妻が「若年認知症」になりました」

◎大沢 幸一 著 講談社 2008年  
若年認知症の妻を介護する日々の苦悩と、次第に夫を見分けられなくなっていく妻に注ぎ続ける無償の愛情。認知症患者とその家族が直面する様々な出来事を、ほのかにユーモアを交えながら伝えるドキュメント。



### 「本人・家族のための 若年性認知症サポートブック」

◎小長谷 陽子 編著 中央法規出版 2010年  
疾患や症状の基本的な知識、経済的支援に活用できる各種制度、介護やかかわり方のポイント等をわかりやすく解説。



- 大阪市社会福祉研修・情報センター2階の図書・資料閲覧室では、福祉に関する図書、視聴覚資料（ビデオ、DVD等）、雑誌等を多彩に揃えています。
- 貸出は図書5冊、視聴覚資料5本、期間はそれぞれ2週間です。
- ホームページから蔵書検索やDVDなどのリストがダウンロードできます。

<http://www.wel-osaka.jp/>

☎06-4392-8233

（開設時間：月～土曜日・午前9時30分～午後4時45分、受付は午後4時30分まで。図書・資料閲覧室の開館時間外は、当センターの開館時間内であれば1階事務室で返却できます。）

## 図書紹介

### 「看護・介護職のところに響く 活かす一言つぶす一言」

◎鈴木 博 著 日総研出版 2011年  
部下のやる気を起こす言い方・つぶす言葉などを紹介するとともに、スタッフが伸びるリーダーシップの発揮法や、物事のとらえ方について解説する。



### 「バイタル測定、整容行為、 その他の行為の知識と手順」

◎平野 頼子 監修 日本医療企画 2010年  
体温測定、耳掃除、爪切り、など厚生労働省によって「介護職が行うことができる」と解釈が示された行為について、事前の準備や行う際の要領、留意点などを解説。



### 「介護の現場がこじれる理由」

◎本間 清文 著 雲母書房 2011年  
自分の要介護状態を受け入れられない認知症の高齢者。机上論としての介護保険制度。今この社会におきている介護の問題を現場から検証し、「介護の現場がこじれる理由」を考える。



## DVD紹介

### 「映像で身につける!項目別介護技術の コツと実践」 全3巻

◎ジャパン通信情報センター 2010年  
学びたい介護ケアを素早く習得できる構成の実用DVD。動画をスロー再生で繰り返し視聴することで、より詳しく、よりわかりやすく、ケア動作の学習と確認をすることができる。



### 「失語症者の生涯にわたる支援」

◎アローウィン 62分 2010年  
社会資源を使った支援、介護保険を活用すること、あるいは自治体が行う事業を利用すること、NPOとの協働による社会参加をすすめることなど。これらの新しい支援の在り方を考える。



### 「おひとりさまを生きる」

◎ビデオ工房AKAME 37分 2009年  
特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、グループリビング、高齢者専用賃貸住宅など、さまざまな暮らし方を紹介。



## 図書

- 「実践!タイプ別重症度別認知症ケア」 日総研出版 2011年
- 「笑う介護士の阿吽」 中央法規出版 2011年

## DVD

- 「虹の歌」 マグネット 1997年
- 「障害者イズム」 ビデオメーカー 2003年



## 開館日・時間、休館日

**開館時間** / 午前9時から午後9時まで(土・日曜日は午前9時から午後5時まで)

ただし、展示ギャラリー、図書・資料閲覧室、総合相談コーナー、成年後見支援センター、高齢者生きがい就労支援センターは午後5時まで

**休館日** / 国民の祝日(土・日曜日と重なる場合は除く)、年末年始(高齢者やその家族の方からの生活全般にわたる電話相談は24時間休まず受け付けています)

### ●それぞれの開設日・時間

項目	直通電話番号	開設日(休館日を除く)	開設時間
会議室など利用の問い合わせ	06-4392-8200	毎日	午前9時～午後9時(土・日午後5時まで) (会議室の申込・お支払いは午前9時30分～午後5時)
研修関係の問い合わせ	06-4392-8201		午前9時～午後5時
図書・資料閲覧室	06-4392-8233	月～土曜日	午前9時30分～午後4時45分(受付は午後4時30分まで)
福祉用具の説明・相談	06-4392-8235	月～金曜日	午前10時～午後1時
自助具の説明・相談		木曜日	午前10時～午後4時
総合相談コーナー	06-4392-8740	月～土曜日	午前9時～午後5時
高齢者24時間電話相談	06-4392-8181	毎日(365日)	24時間
高齢者生きがい就労支援センター	06-4392-8221	月～土曜日	午前9時～午後5時(受付は午後4時30分まで)
成年後見支援センター	06-4392-8282	月～土曜日	午前9時～午後5時

## 貸室ご利用の皆様へ

大阪市社会福祉研修・情報センターでは、貸室ご利用の皆様により計画的に便利にご利用いただくため、空室状況を公開し、FAXによる申込みを受付けています。

### 1 空室状況をホームページに掲載しています。

空室状況は、ホームページの「センターご案内」→「貸室利用のご案内」→「空室一覧」に、PDFで4カ月分掲載。

URL / <http://www.wel-osaka.jp/>

### 2 利用申込の受付は4カ月前からです。

利用日の4カ月前から、電話や直接窓口で予約いただいたうえ、所定の用紙で申し込みください。

受付時間は午前9時30分から午後5時まで

☎06-4392-8200

#### ●FAXによる申し込み手続きの手順

FAXによる申込は、ホームページの「センターご案内」→「貸室利用のご案内」→「FAXでのお申し込み」に、申込手順を掲載しています。

☎06-4392-8206

※ファックスでの申し込み可能な期間は、利用日の4カ月前の午前9時30分から利用日の3日前までです。

## 交通 / ご来所には【市バス】【地下鉄】【JR】をご利用ください

- 市バス ..... **「長橋二丁目」バス停すぐ**  
7系統(あべの橋～住吉川西)・52系統(なんば～あべの橋)・赤バス(西成西ルート)
- 市営地下鉄・四つ橋線 ..... **「花園町」駅(①・②出口)から徒歩約15分**
- JR大阪環状線・大和路線 ..... **「今宮」駅から徒歩約10分**

所在地 / 〒557-0024 大阪市西成区出城2丁目5番20号  
 設置主体 / 大阪市  
 運営主体 / 社会福祉法人 大阪市社会福祉協議会  
 (指定管理者)

電話 / ☎06-4392-8200 (代表)  
 ファックス / ☎06-4392-8206  
 URL / <http://www.wel-osaka.jp/>



### 「ウェルおおさか」の主な設置・配布場所

区在宅サービスセンター(区社協)、区老人福祉センター、区子ども・子育てプラザ、区役所、区民センター、大阪市内の図書館、大阪市サービスカウンターなど